

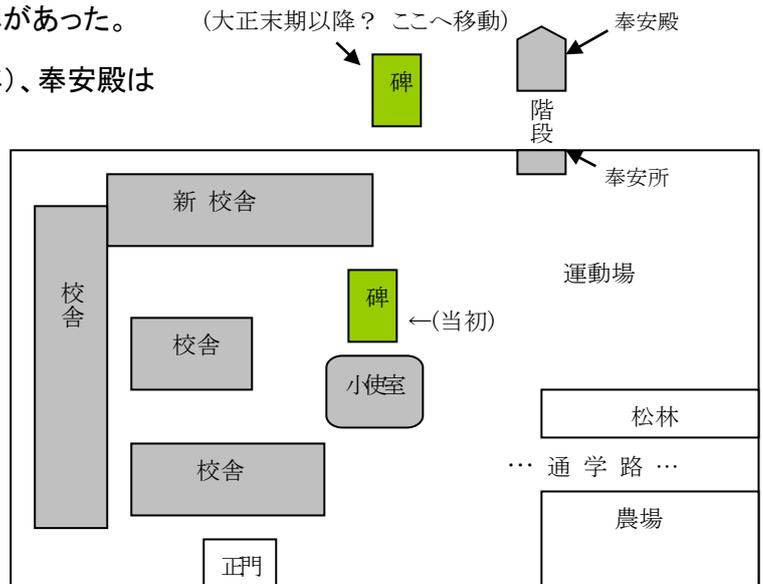


## “碑”の元の場所は？

町内古老の“石川種松(傍示本)・石川隆大(部田)・石川正巳(祐福寺)・石川菊次郎(和合)の4氏に尋ねてみました。

その記憶と「東郷教育七十年誌」をまとめると…

- 元は小学校校舎小使室の北側にあったが、いつの頃からか「国旗掲揚塔」とともに「奉安殿」の近くの西側にあった。
- 地山を削って校舎や運動場を整備したときに小さな地山を残し、そこに松と記念碑があった。
- 北側の新校舎は大正10年(1921年)、奉安殿は昭和3年(1928年)に造られた。
- 「奉安所」から「奉安殿」までの階段は、50段以上(100段ほど?)あった。
- 農場では、農業の実習をしていた。
- 町内の各集落に忠魂碑ちゆうこんひがあったが、戦後に進駐軍におびえて、これらを東郷小学校の裏山に集めて横置きしていた。



## 尚武会って…なに？

明治10年代の後半から陸軍省は徴兵慰勞会活動を含む兵役奨励策を展開しています。

愛知県内での徴兵慰勞組織(軍事援護組織)の名称としては、「徴兵慰勞義会」、「徴兵慰勞会」、「奉公議會」または「尚武会」などがあったようです。

- 「尚武会」というのは、兵隊の援護会のようなもの。
- 在郷軍人会が全国に組織される前のもの(明治39年以前)。傍示本で加藤銀太郎の弟の信太郎氏が尚武会をつくったといわれています。
- 昭和13年2月の「村勢一覧」に各種団体として「在郷軍人会 236名」、「尚武会 657名」と記されています。

現在までの調査状況に基づいてまとめました。

「奉安殿」などの詳細については、改めて別稿で取り上げさせていただきます。

H23.8.12 作成、R6.12.20 修正